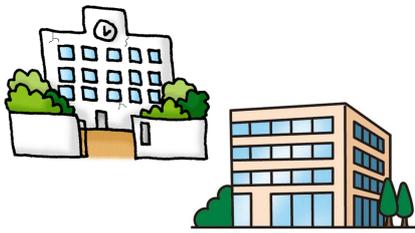


「公共施設のあり方を考えるシンポジウム」

平成27年1月24日(土)

日光市の公共施設の現状と課題 マネジメントの取組み状況



日光市
総務部行政改革課
課長 矢嶋 尚登

1

はじめに・・・

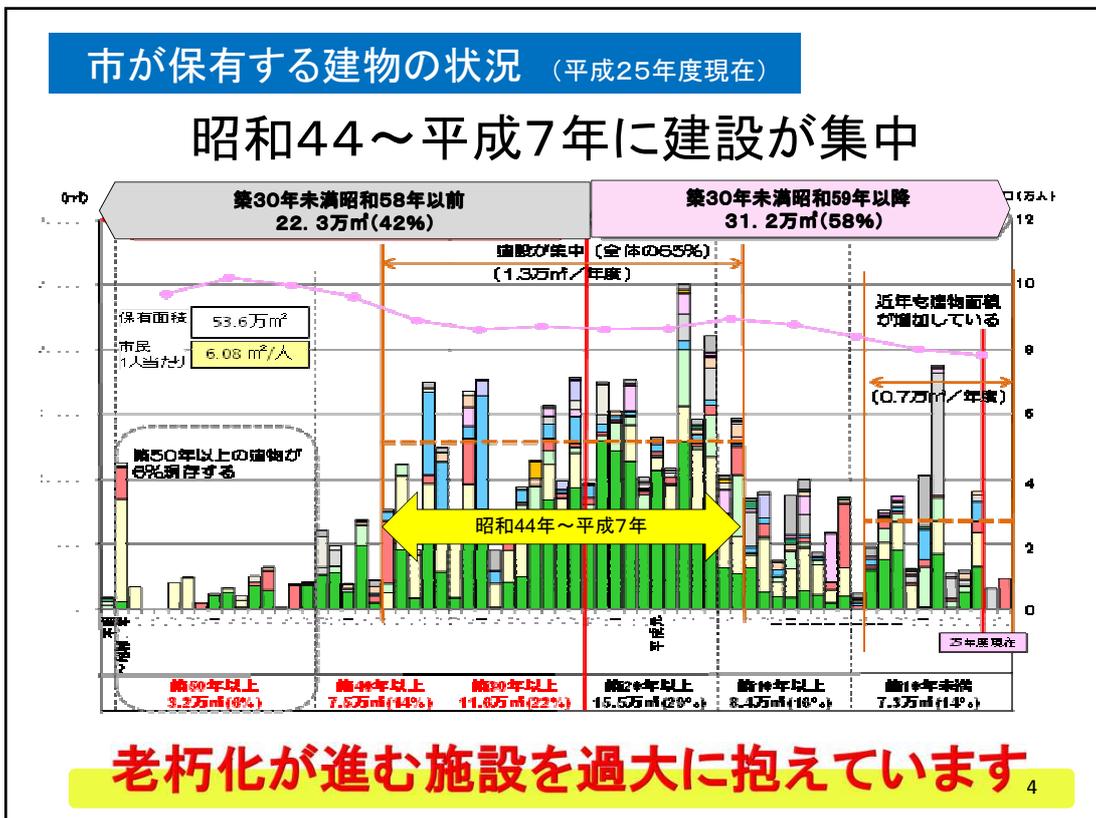
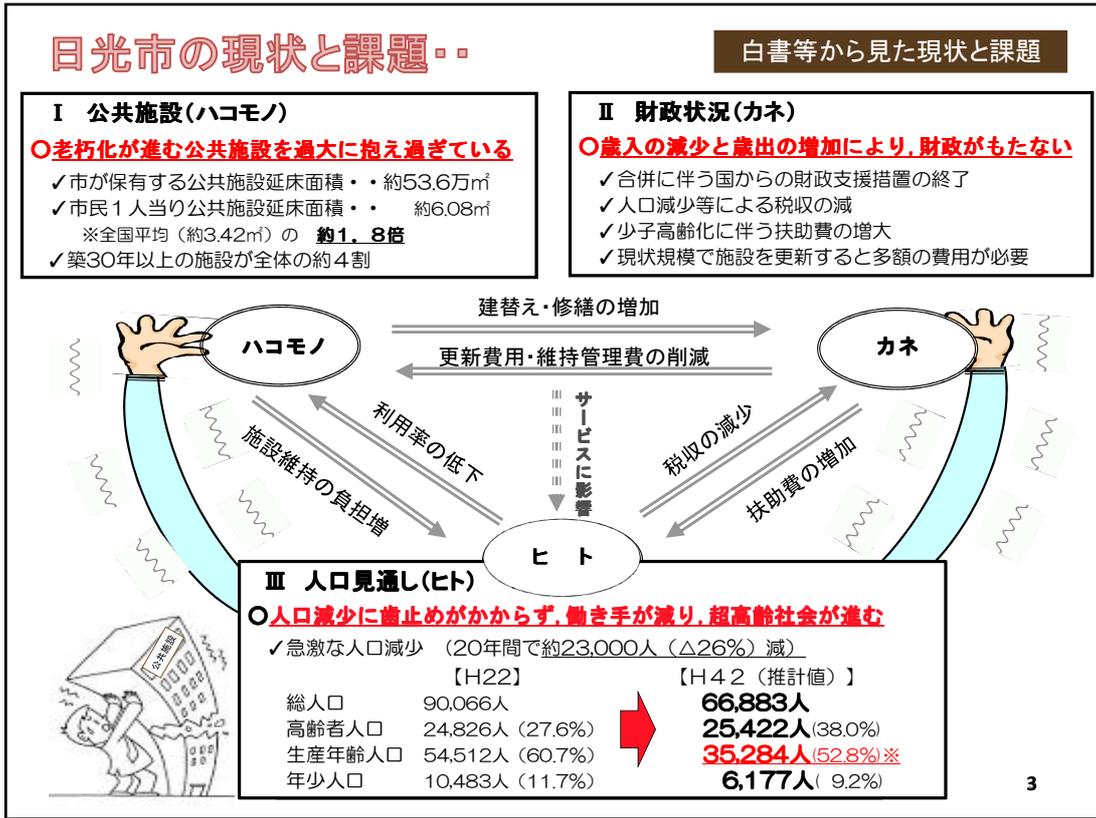
本日の説明のポイント(伝えたいこと)

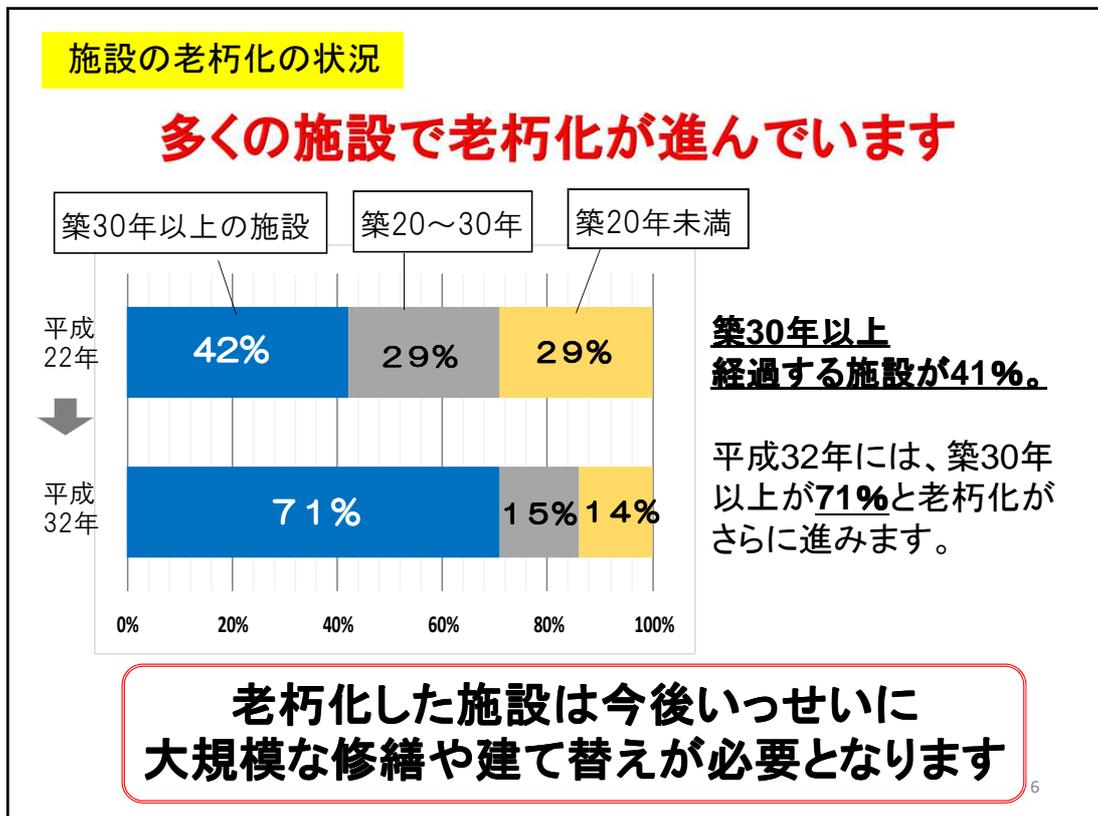
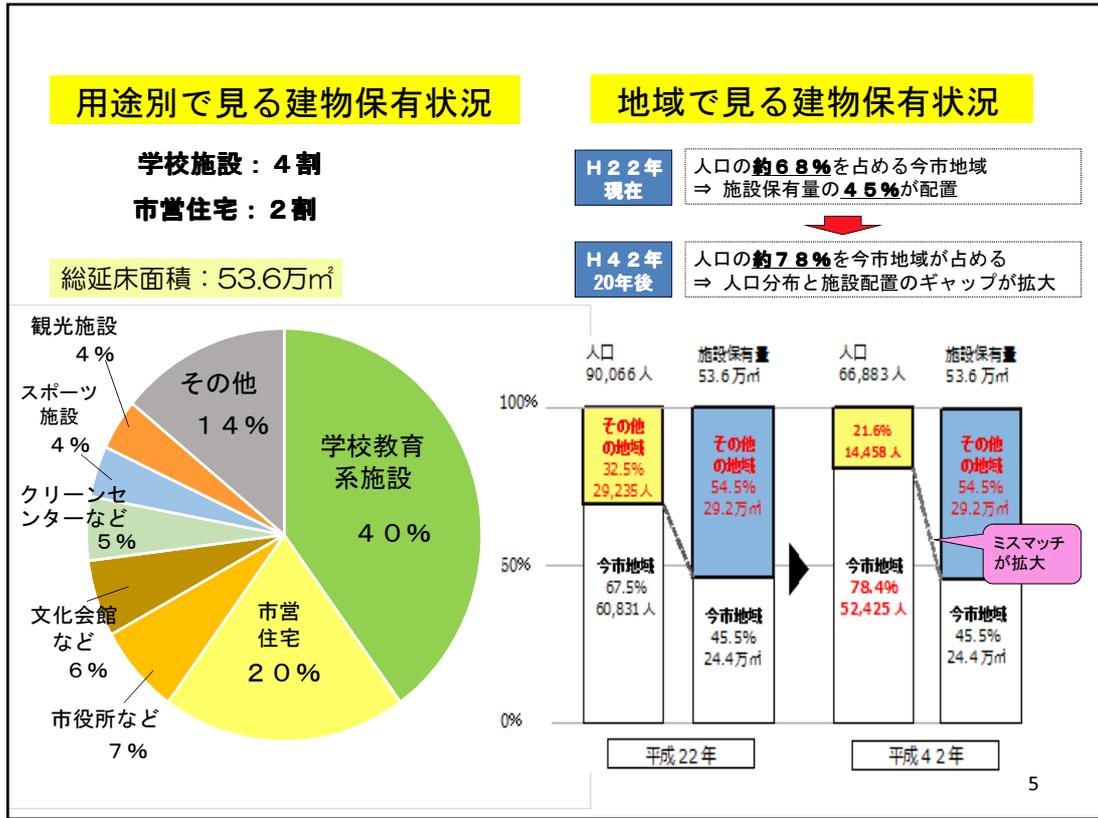
◎ 情報・問題を共有しよう!

- ・ 日光市が抱える現状と課題を知る
- ・ マネジメントの取り組みを知る
- ・ 将来のために、今やるべきこと

◎ オール日光で取り組もう!

2





建物実態把握で見えてきた劣化状況等

建物の劣化状況の詳細に調査により、老朽化とともに多くの建物で劣化が進行していることが確認。

施設状況と課題

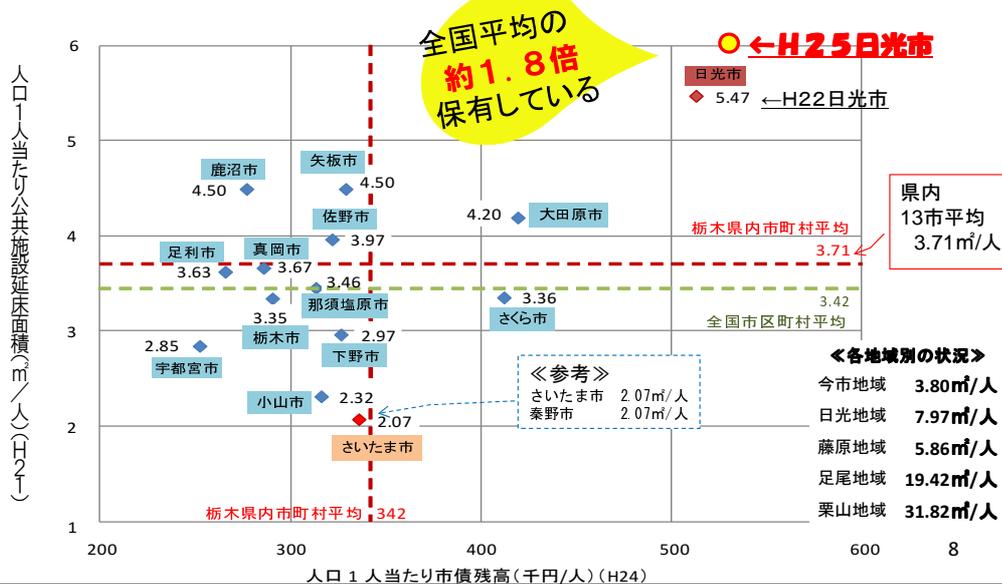
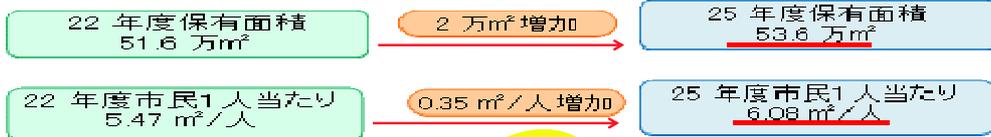
- **旧耐震基準の建物に対する耐震化対応が遅れている**
- **重要部位で早急に改修等が必要な建物がある**
- 適正な時期に適正なメンテナンスが行われず、施設の劣化・損傷が進行
- 施設情報の一元管理、建物状況の詳細把握がされていない
- 新規整備に優先的に費用が投入され、本来必要な大規模改修や建替えが先送り
- 地域間で、劣化の進行状況に差がある
- 利用率・稼働率の低い施設が多い
- 寒冷地対応が十分でない施設があり、施設の劣化に悪影響を与えている
- 設備の耐用年数が経過し故障が多い、部品が古く、部品の更新ができない

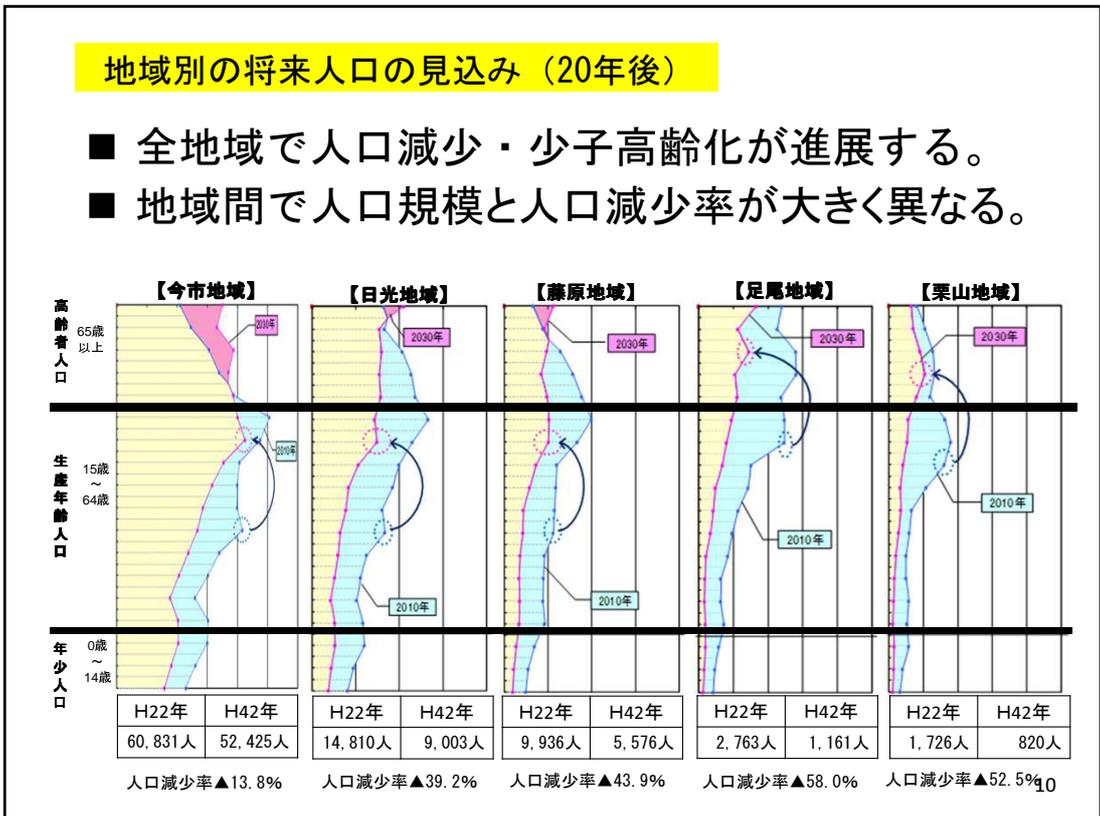
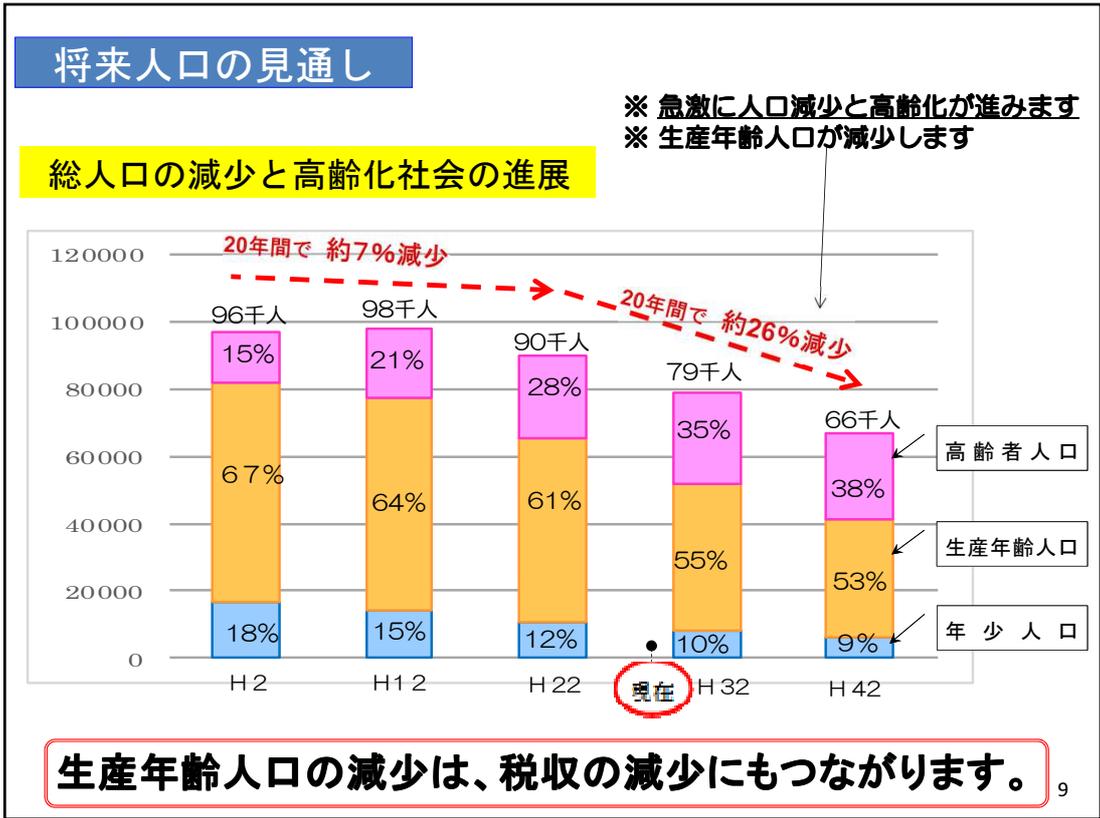


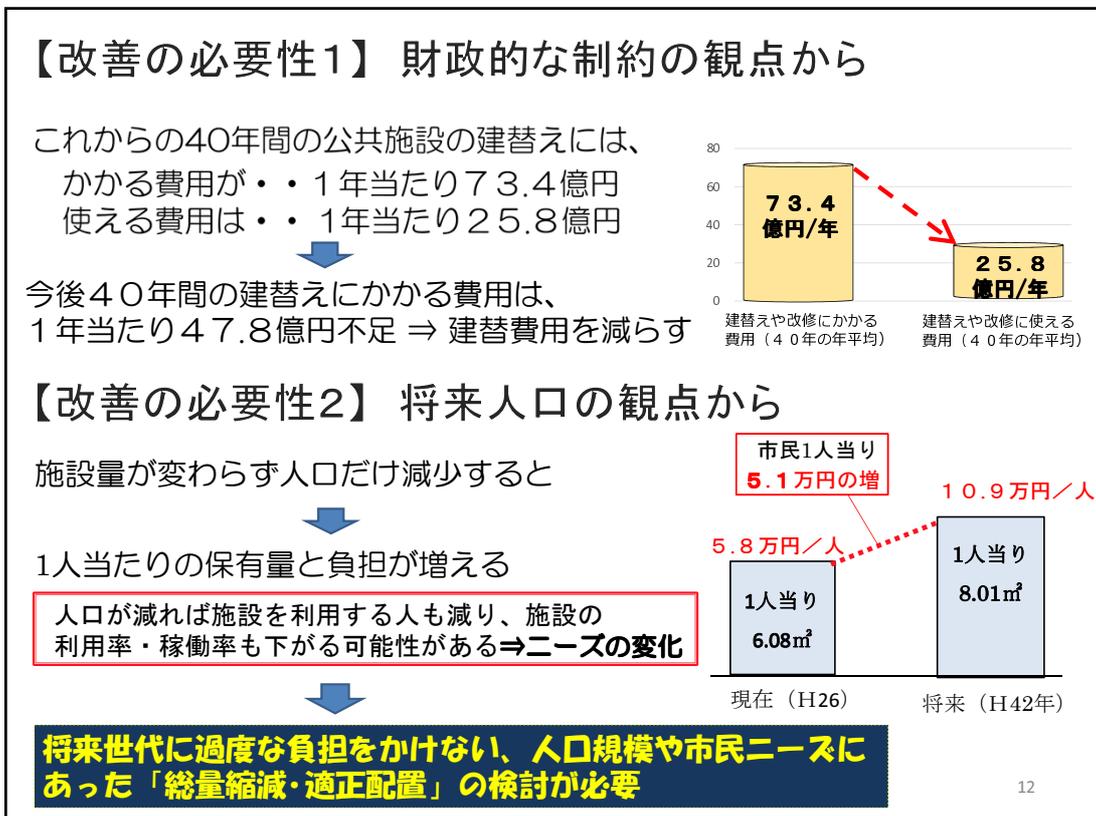
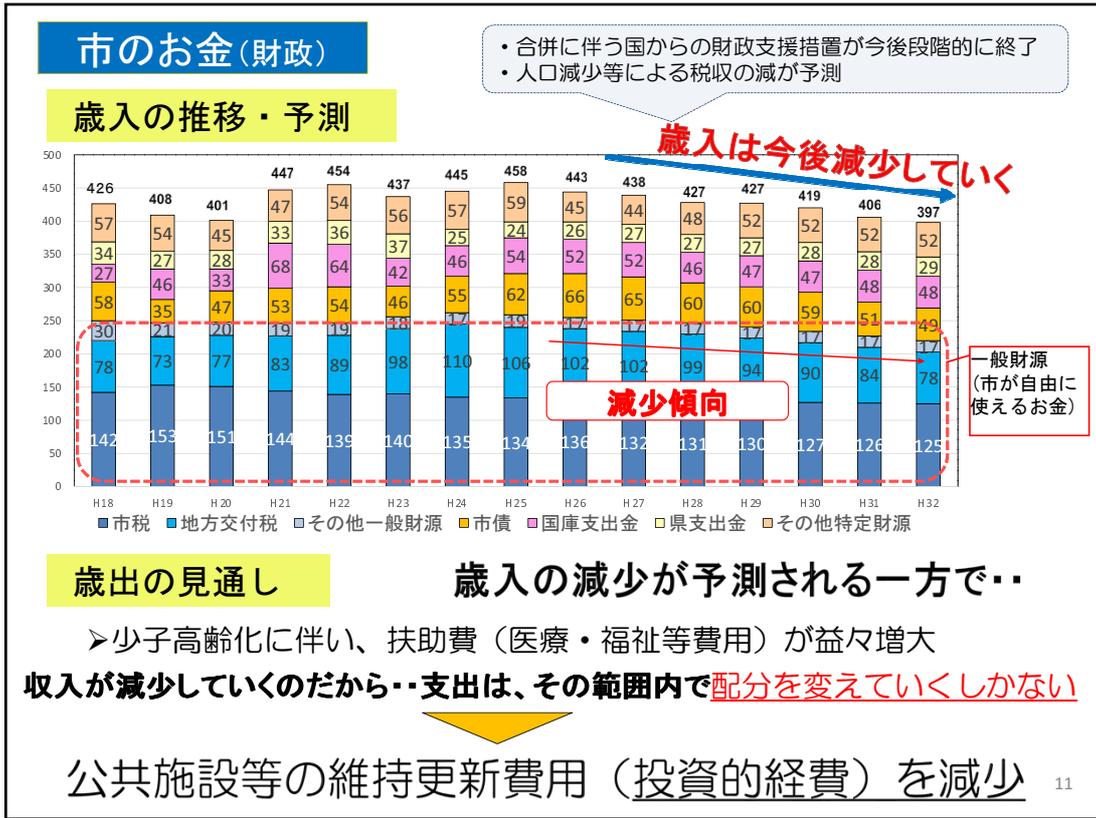
○現状を把握し、機能性・経済性等の向上を踏まえた保全基準の設定が必要。

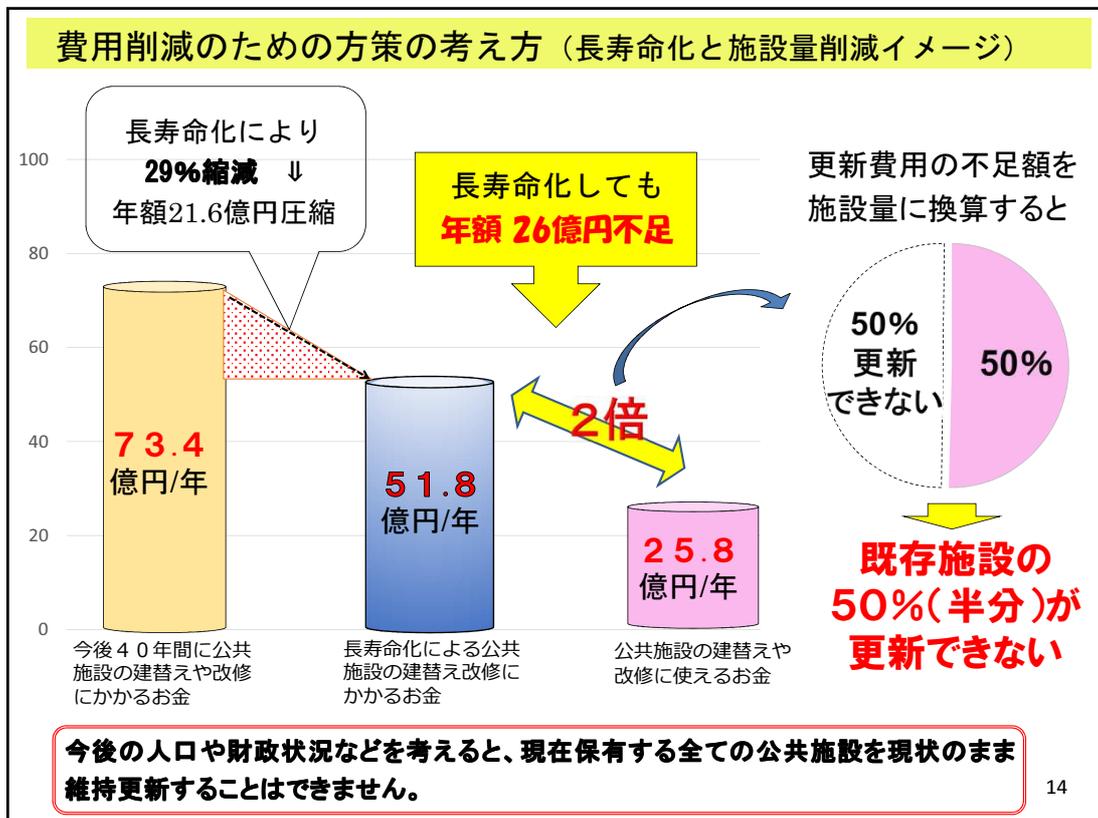
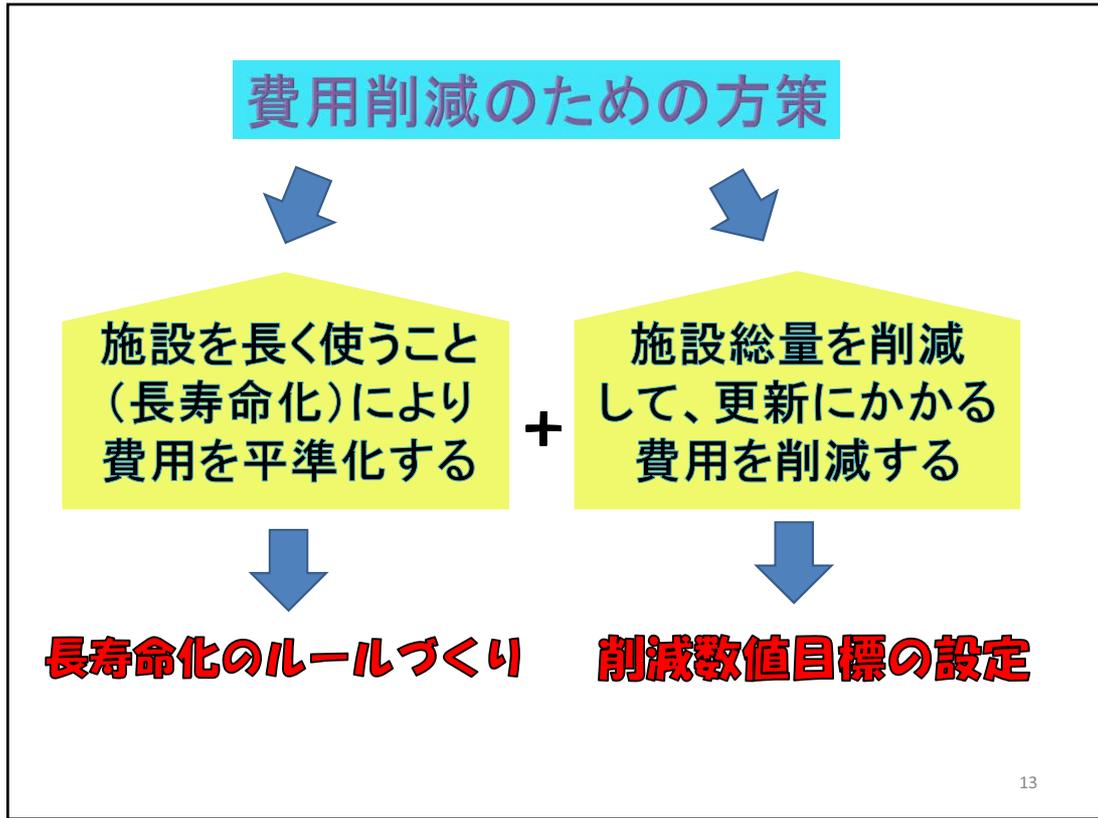
○長寿命化対策を実施し、維持・向上させながら経費縮減が必要。

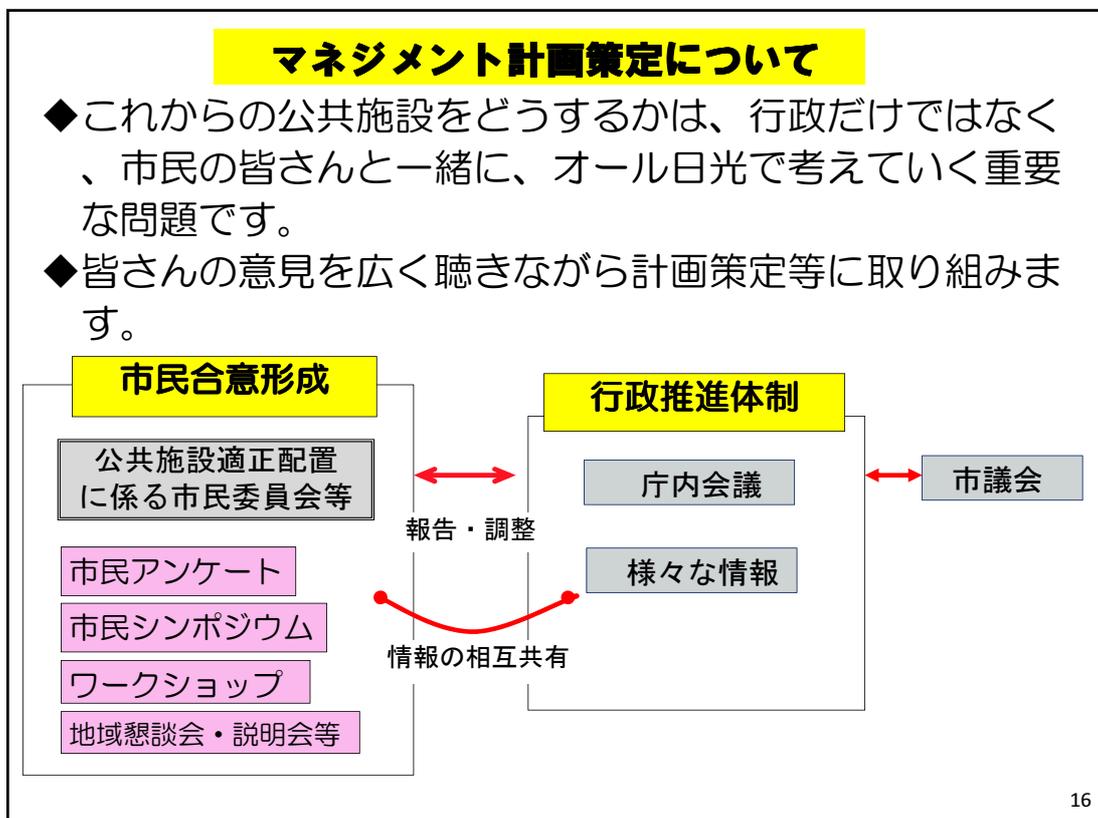
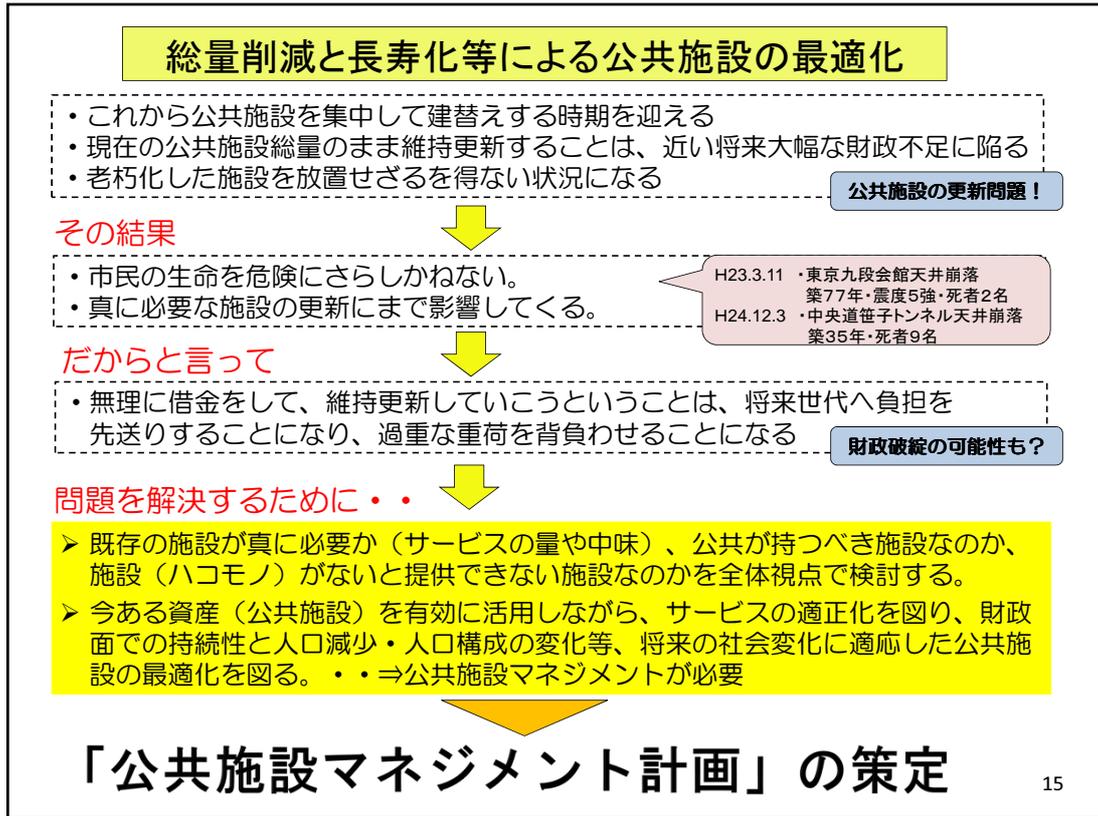
市民1人あたりの建物の保有面積と市債の状況

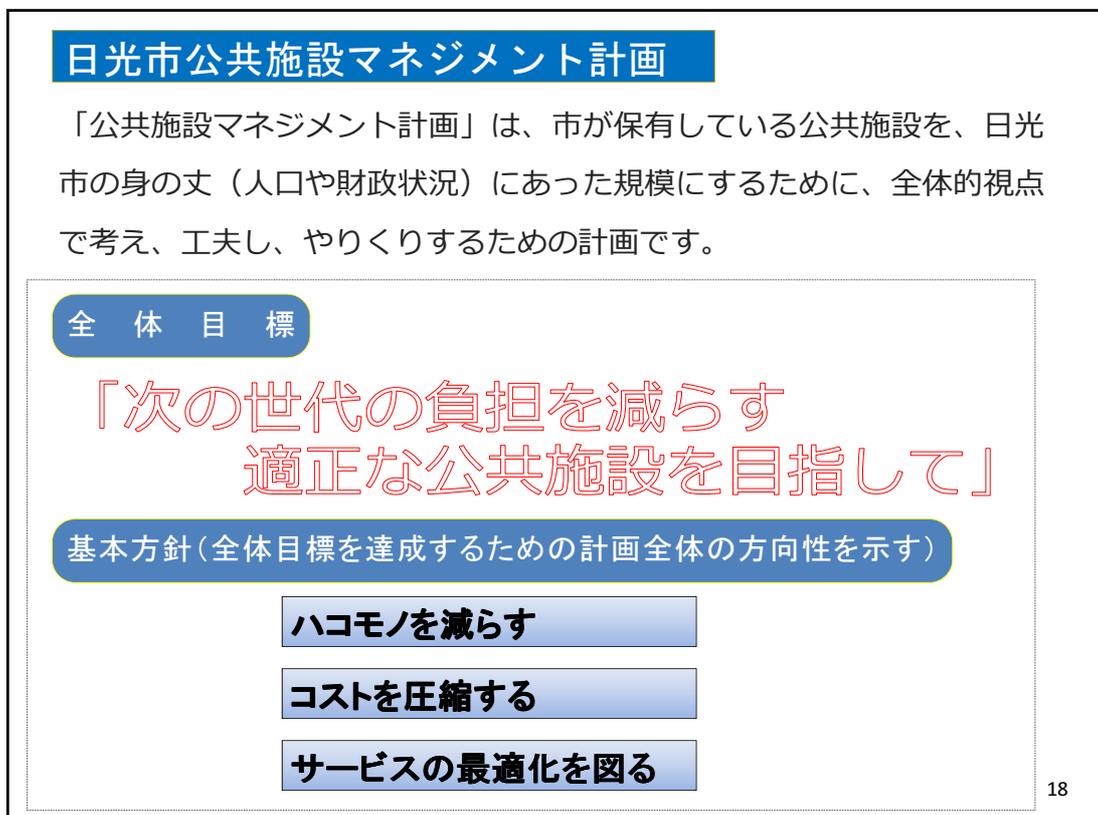
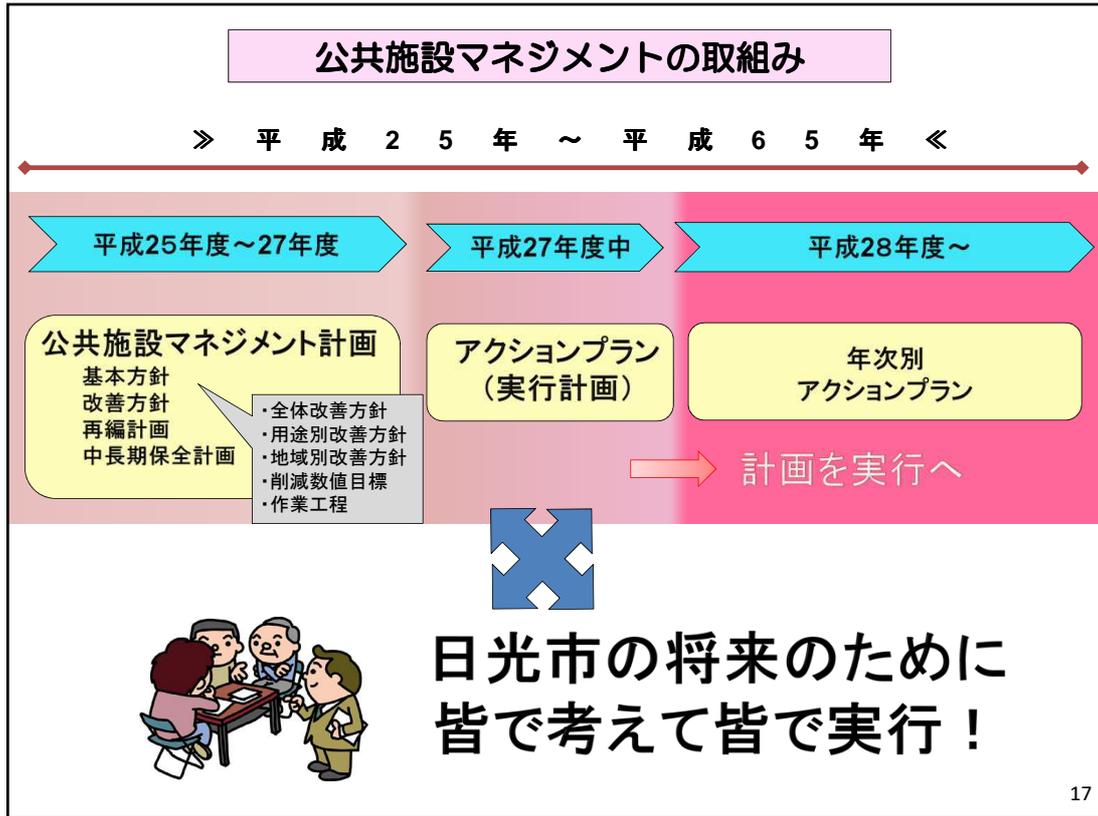












改善方針(改善方策)の策定検討

現在、基本方針を具現化するための、改善の方策となる改善方針の検討調整を行っています。

キーワードは
集約・複合化

改善方針(案)

1)施設重視から機能重視への転換による施設の再編

- ・機能重複している施設の集約等の実施のため、施設再編(集約・複合化等)の考え方をルール化、手法等明示
- ・既存の枠組み(機能・規模・エリア)を超えた施設の集約、人口過小地域における施設再編のルール化

2)施設長寿命化と安全性の確保

- ・施設を長く安全に使うことを前提とした計画的保全の実施のための基本的考え方(※)を明示。
※耐震安全性の確保、劣化診断による危険部位の早期発見・解消、目標耐用年数設定による施設の長寿命化等

3)資産マネジメントの展開による効率的な資産管理・運営

- ・再編と保全の各方策を具体的に動かすためのマネジメントの展開手法(※)について明示。
※全庁的な推進体制の構築、民間活力の活用と連携による施設機能の充実、未利用財産の処分による財源確保、コスト削減と適正な受益者負担の検討(適正化)等

4)問題意識の共有化と市民との協働

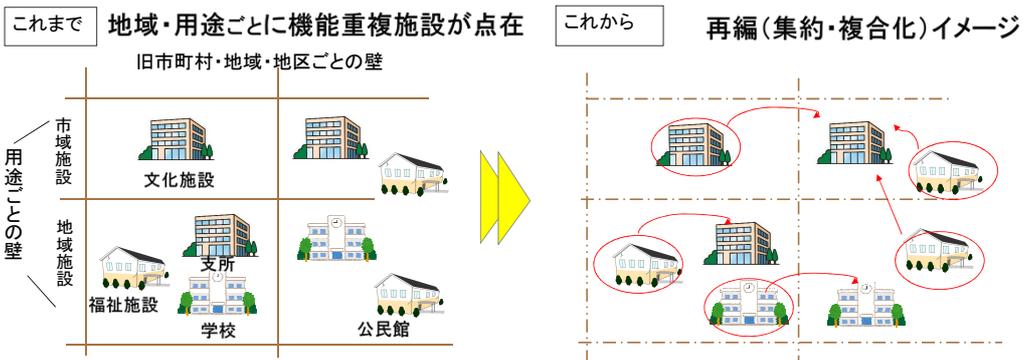
- ・市民への情報提供を積極的に行うことにより問題意識の共有化や市民との協働による適正なサービスの構築を目指すための施策について明示。

19

改善方針(改善方策)のポイント

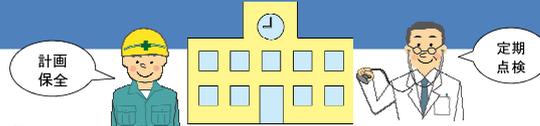
◎施設重視から機能重視への転換する

- ・施設量は減らしても、サービス(機能)はできるだけ維持 + 機能向上
- ・サービス提供に必要な機能、規模等を検討し、統廃合する施設を選別(仕分け)
- ・用途が重複する施設の集約化
- ・「一つの目的で一つの施設」の考え方から、「機能集約による施設の多機能・複合化」の考え方に転換することで既存施設を有効に活用
- ・施設の利用範囲を考えながら、施設数と配置を適正化



◎施設長寿命化と安全性の確保

- ・施設を利用する市民の安全性と利便性・快適性を確保した施設維持
- ・定期点検による修繕箇所を把握し、早期修繕・改修により施設を長持ちさせる
- ・建物を支える骨組の健全性を確保し、施設をできるだけ長く使う
→使用する目標年数を長く設定し、計画的な修繕・改修によりトータルコストを削減



◎効率的な財産管理と運営を行う

- ・民間でも提供が可能なサービスは、民間に委ねる。
- ・公共施設を経営資産と捉え、保有する施設を有効に活用する（施設提供と処分）
- ・公共施設のデータを一元的に管理し、全庁的な視点で資産経営できる体制を整備
- ・民間事業者の資金やノウハウを積極的に活用し、効率的・効果的に資産経営する
- ・未利用財産や余剰財産（土地、建物）を処分し、財源を確保



21

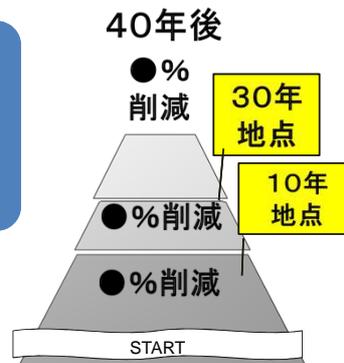
◎市民との情報・意識の共有化と協働

- ・公共施設の適正化に向けて、市民の皆様に積極的に情報公開する（公共施設の現状、課題、市の取組み状況など）
- ・市民・議会・行政が問題や意識を共有し、真に必要な施設サービスのあり方を共に考え、公共施設の適正化に向け、共に取り組む（ワークショップ、シンポジウム、説明会等の開催）



◎施設削減の数値目標を設定

- ・将来の財政状況や人口状況を見据えて、施設量を計画的に削減する。
- ・削減率の達成目標を年次別で設定し、段階的に削減を目指す。



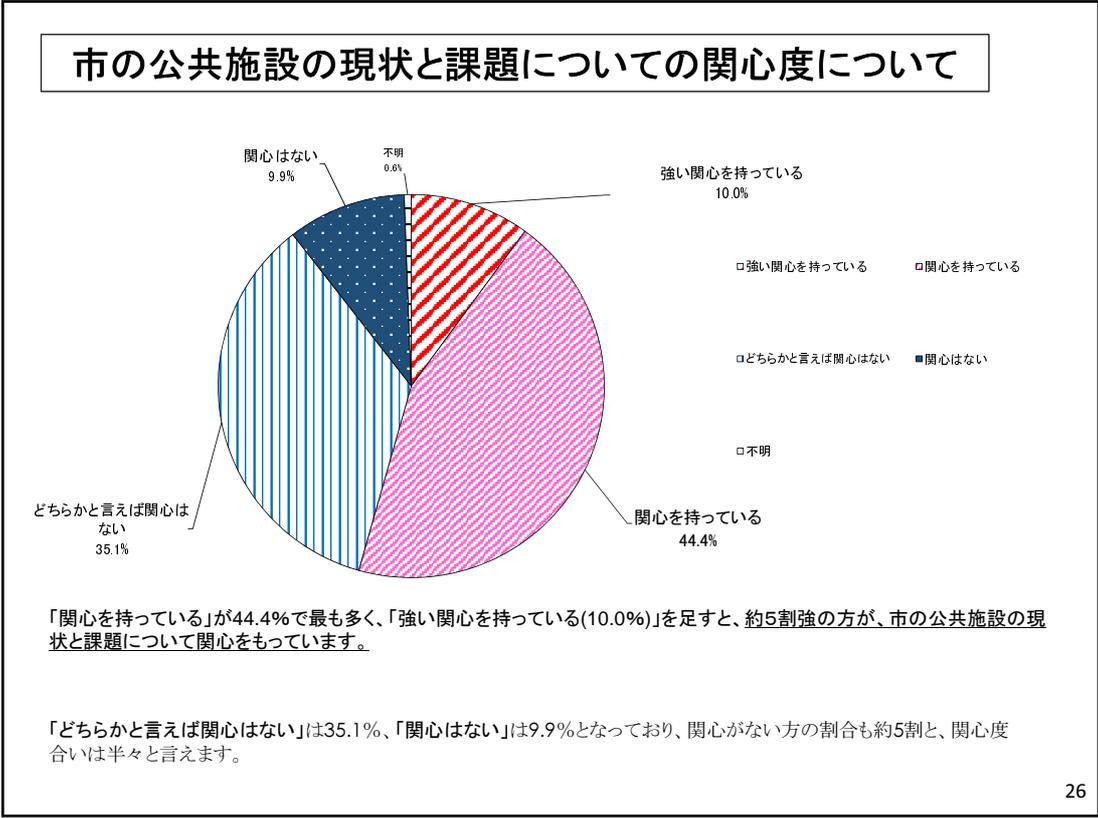
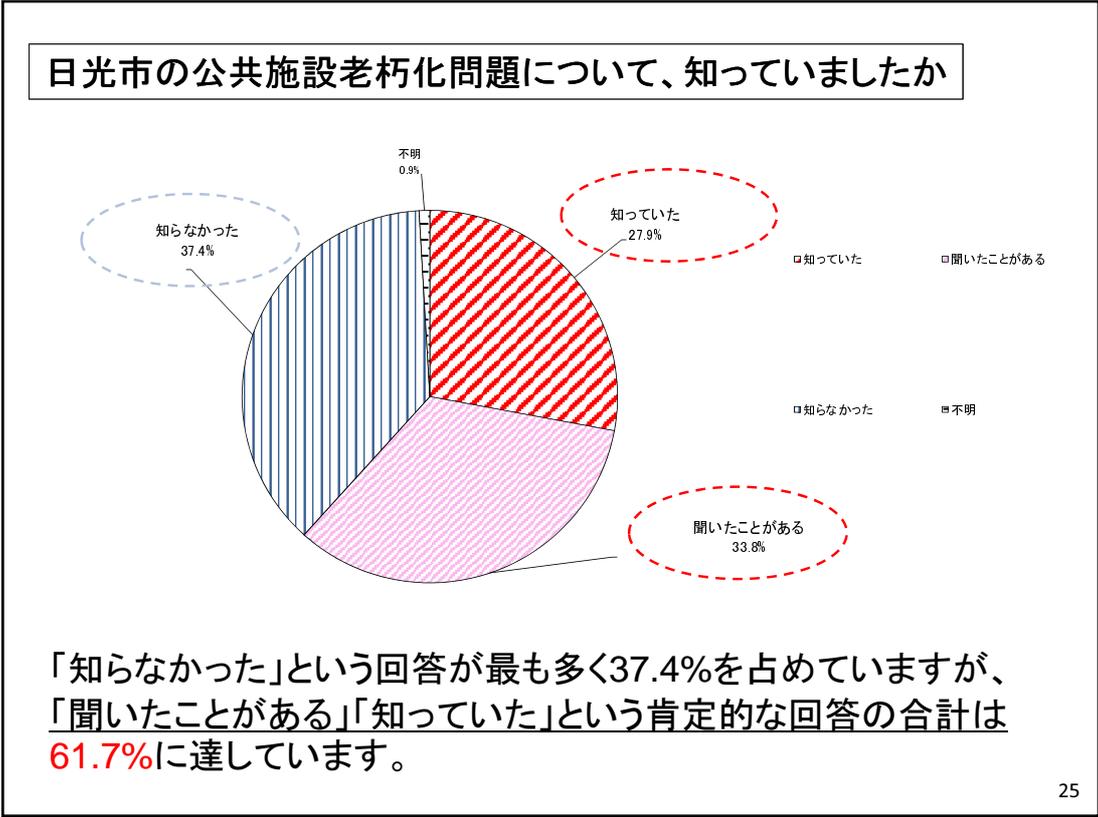
22

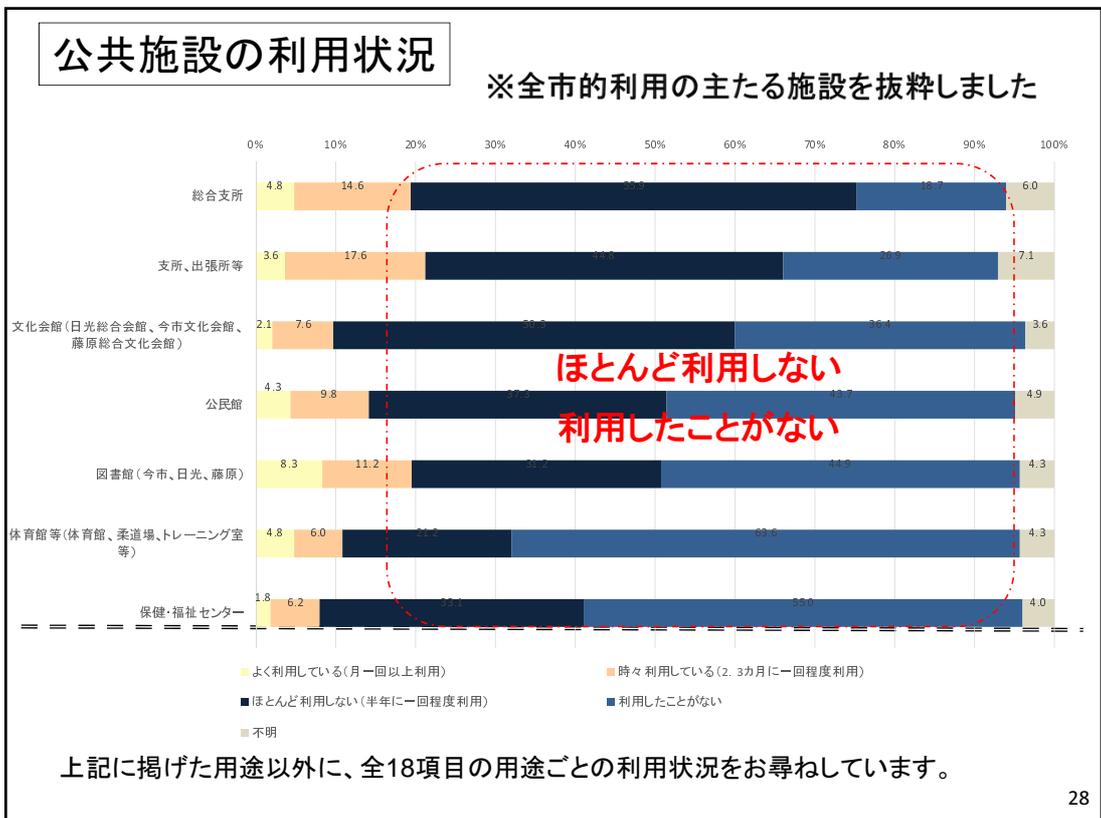
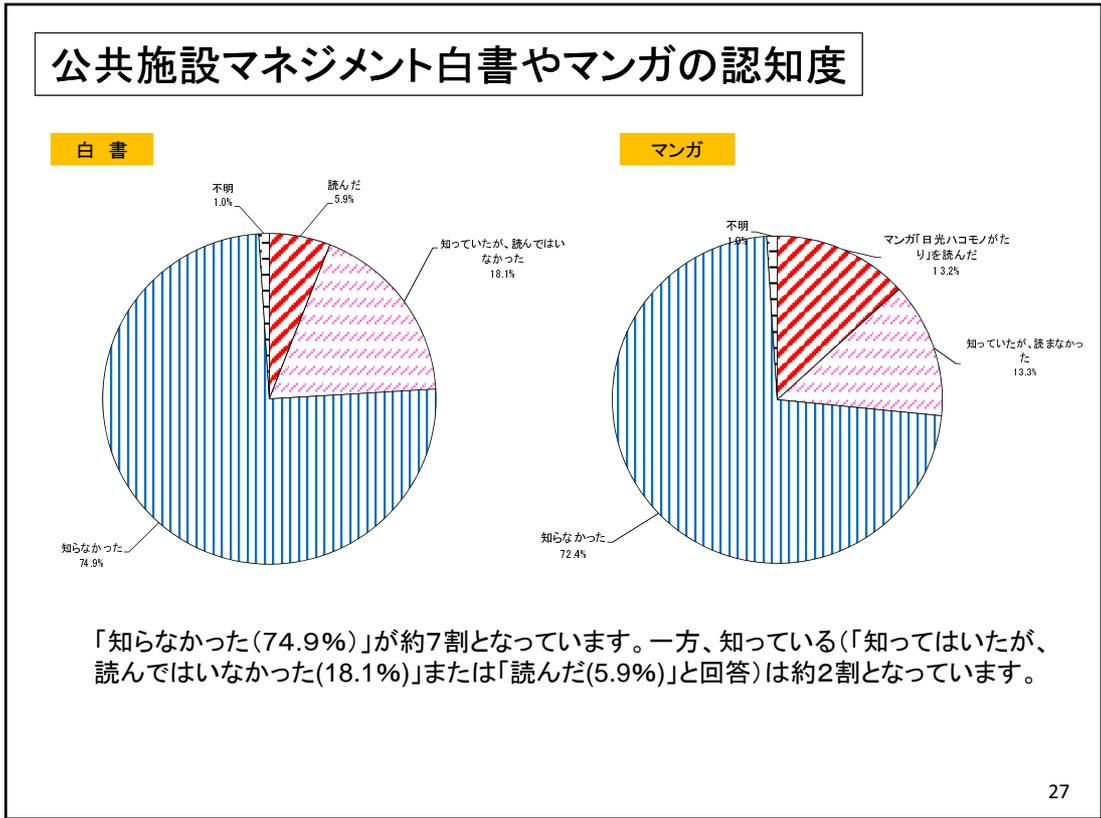


「公共施設最適化に向けた 市民アンケート調査」結果

【市民アンケート調査の概要】

- 目的: 公共施設マネジメント計画における「改善方針」と「再編計画」の参考とする。
- 対象: 18歳以上の日光市民2,500人(H26.9.1現在)を無作為抽出・郵送方式
- 実施期間: 平成26年10月1日から平成26年10月31日
- 有効回収数: 877件(有効回収率35.1%)





○利用頻度が低い方の割合（「ほとんど利用しない」または「利用したことがない」と回答）

⇒すべての施設で約8～9割

○利用頻度が低い理由としては、
「施設の存在は知っているが利用する必要がない」

⇒すべての施設で約5～7割

29

公共施設の施策全般について

【賛成の割合が多かった方策】（ ）内は賛成率

- 未利用地の売却・賃貸により収入を得る 90.0%
- 統廃合、複合化、多機能化による施設数削減 86.4%
- 施設更新・管理運営に民間のノウハウ、資金の活用 79.4%
- 施設の長寿命化 72.7%
- 民間施設利用時の助成 70.5%
- 近隣自治体との施設共同建設・運営 70.4%

30

【反対の割合が多かった方策】 %は賛成率

- 特別な税金等の徴収等 19.7%
- 施設利用料の引き上げ 34.3%
- 施設サービス水準の引き下げ 39.6%

市民負担に繋がるような施策

【賛成／反対の割合が均衡の方策】

- 地域活動に密着した施設は、地域住民等が所有し、維持管理を行う 58.4%

31

まとめ

《すべての公共施設を維持することはできません》

このままじゃいけない、じゃあ、どうする？

必要なサービスの
選択をする時

皆で少し我慢も
必要

魅力ある日光市を次世代に引き継いでいく
ために皆で知恵を出し合い工夫する

市民との意識・情報の共有
協働で推進

32

最後に

総論賛成

各論反対



子供や孫たちなど 次の世代に負担を残さないために

市民の皆さん

将来の日光市を見据えて

行政

全市視点&将来視点で考えましょう！！

ご清聴ありがとうございました。

33